1月28日(日)

長崎県産 脂の乗った のどぐろ丼

自家製のどぐろ醤油付

1パック **1,580円(税込)**

皆様こんにちは、西田鮮魚店の菊間です。気付けば1月も後半！今年の目標を頑張らなければと思う今日この頃です。皆様は今年の目標を立てられましたか？私の目標は脱！マイナス思考です。鮮魚店に配属になりもうすぐ2年になります。鮮魚はとにかく明るく、ポジティブなスタッフが多いんです。そんな楽しく働くスタッフを見ると、このままではいけない！と思いこの目標を立てました。

さて、話は変わりますが先日の事です。「やたらのどぐろがあるではありませんか？」と店長に質問。「まぁ予定無いけど、仕入したんじゃけ、考えればいいじゃん！」と一言。

まぁ雪降ったし、手間ひまかけて美味しい丼を作ろうか！とポジティブ菊間が考える事に!!

という事で今回は脂の乗ったのどぐろをたっぷり乗せたのどぐろ丼です。山陰では白身のトロとも呼ばれるほど！ここに当店惣菜担当城田さんが、のどぐろの骨を焼き上げ醤油、酒、味醂でブレンドし特製醤油ダレを作って頂きました！最高なのどぐろ丼!!数量限定です。ちなみに出汁をかけてお茶づけにしても最高です。お早めにお買い求め下さい！お待ちしとります。

西田鮮魚店　菊間 徹也

西田鮮魚店 ☎72-5246

ジョイフル

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489（旧庄原市内はご自宅に配達）

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

『庄原にスタバ？①』

鮮コーポレーション㈱　代表取締役会長　西田　昌史

『フレスポ三次プラザ』に行った。
ずいぶんコンパクトになった。
地元のお店が数店舗しかない。時代だ。
その分、『無印良品』が目を引く。
去年、安芸高田の『道の駅三矢の里あきたかた』に、『無印良品』ができるという新聞記事を見て、「へぇ～～～！」とびっくりした。その後、例の市長と市議会の軋轢で中止になってしまった。「もったいないなぁ。こんな、有名な店が、せっかくその気になってるのに」。マジで、そう思った。
庄原にできるとなったら大歓迎だがなぁ。
しばらくして、『無印良品』が『フレスポ三次プラザ』にできると聞いた。三次ならできても不思議じゃぁない。安芸高田にできると聞いた時のような驚きはなかった。「そうかぁ」くらいなもんだ。それでも羨ましくはあったが。
そう思いながら、『無印良品』を展開する『良品計画』の経営方針をネットで検索してみた。
今の時代の経営課題が網羅されていたが、そんな中で、全国津々浦々とか、土着とかいう言葉が頻繁に出てくるのに気づいた。少子高齢化の波に襲われ、田舎がどんどん壊れていく今の日本だ。地方の将来がどうなっていくのかという危機感と、自分たちがなんとかしなければ、という使命感が伝わってきた。
安芸高田への出店表明は、その表れに違いない。世話になっている店舗開発の会社の人も、そんなことを言っていた。

去年の12月、紹介されて話した（といってもオンラインだが）50才がらみの経営者。彼も同じ危機感と使命感を持っていた。
全国に商業施設を作る仕事をしている上場企業の子会社の社長の彼は、熱く語った。
「地方の小さな町に行くと、人がすごいスピードでいなくなっています。このままでは、町が町でなくなってしまいます。なんとかしないといけないという思いが、日に日に強くなっています。
こうした田舎の町の再生に、会社の仕事として取り組むのはもちろんですが、私自身のライフワークとして取り組んでいきたいと思っています」。
「庄原でもぜひに…」と売りこんでおいたが、こんな人たち、こんな会社に出会うことが増えてきた。
前にも書いた『モンベル』の創業者の辰野会長もそうだ。

そうは言っても田舎への出店は難しい。お客の数が少なすぎる。ようするに売上が見込めない。それでも、利益を出そうとすると、とうぜん経費を抑えなければいけない。といって、経費の中で田舎だからといって安いのは地代くらいのものだろう。地代は広島などにくらべるとけっこう安い。しかし、人件費は、ほぼ変わらない。建築費なんかは広島より高かったりする。原材料費なんかもそう。配送費用が余計かかるし、消費量も少ないから割高になりやすい。
出店するときは、その町の市場調査をするが、県北で全国チェーンの店が調査をして、出店の合格点がとれるのは三次ぐらいのものだろう。庄原は難しい。
もう35年も前になるが、三次に『すし家族』1号店を出店、その翌々年だったか庄原に2号店を出した。すると、庄原店の売上は、三次店の7割しかなかった。この差は大きい。

庄原のすし家族を閉店したのは、道路の拡張が原因だが、そのあと、たくさんの人から再開を求められたが、決断できず今にいたる。

経営者として考えたら、勢い、人口の多いところに出店する方を選択してしまう。しかし、住民としてだったら、やっぱり、近くにそこそこ店はあってほしい。便利であってほしい。
三次くらいがちょうどいいような気がする。三次くらい、いろんな店があればいいなと思う。でも、それはムリだ。
三次市の人口が、ざっと5万人、庄原市が3万人。分けて考えると庄原に出店はしにくい。でも、三次と庄原は、ひとつの町みたいなもんだ。いっとき、備北新都市みたいな考え方もあった。そうすれば、人口8万人の市ということになる。三次地区と庄原地区と考えればいい。えらく広い市になってはしまうけど。
しかし、そう考えれば、『無印良品』もそうだが、『ユニクロ』にしても『マクドナルド』にしても、人口8万人の町なら1店舗が普通だ。庄原になくても仕方ない。

まぁ、それはそれとしてこんな話を聞いた。庄原に嫁いできた女性の言葉だ。
「庄原に、これ以上何もなくていい。今のままでいい。ただ、『スタバ』がほしい。『スタバ』さえあれば…」
なるほど、わからんこともない。でも、ムリ、ムリ。庄原に『スタバ』が出店するわけない。
たぶんだが、『スタバ』は人口10万人くらいの町が出店の最低条件じゃないだろうか。いろいろ見て、そう思う。
ところがだ。ところが、人口28000人の山間の町に『スタバ』があるのだと言う。
岡山県の高梁市だ。そこの駅に『スタバ』があるというのだ。
行ってみた。庄原ICから高速に乗って新見ICで降り、そこから下道で30分。
備中松山城の城下町としての風情があり、『男はつらいよ』のロケ地としても知られる高梁市だが、庄原と同じような町の大きさだ。町を歩く人影も少ない。
ナビに導かれて高梁駅へ着く。駅は4階建てのビルの中にあり今風の駅だ。そこは庄原とは全然違う。
駅の裏口に車を止めて歩いた。改札の前を通り、右に曲がる。あった。『スターバックス』。おまけに『蔦屋書店』まであるではないか。そして、そこには『高梁市立図書館』が併設されていた。

ここが人口28000人の山間の町？

（続く）

2024年1月28日